

メンター通信(VOL. 3)

平成22年2月16日
【愛知県自閉症協会】

年が明け22年が始まりました。10～12月は一年の中で行事の多い時期になりました。様々な活動の中でメンターがデビューしたり活動させていただきました。今回は行事の内容についても盛り込んでお伝えしたいと思います。

①メンター活動報告(10～12月)

10月1日	サポートブック研修	1名
10月8日	サポートブック研修	2名
10月29日、30日	家族支援プログラムサテライト(岡崎会場) サポートブック研修 障害特性講義・疑似体験 ピアカウンセリング	1名 1名 9名
11月5日	サポートブック研修	2名
11月6日	サポートブック研修	1名
11月11日	サポートブック研修(奈良)	1名
11月12日、13日	家族支援プログラムサテライト(北名古屋会場) サポートブック研修 障害特性講義・疑似体験 ピアカウンセリング	1名 2名 8名
11月24日	サポートブック研修	2名
11月25日	サポートブック研修	1名
12月1日	サポートブック研修	1名
12月9日	サポートブック研修	2名
12月13日	サポートブック研修(奈良)	2名

家族支援プログラムサテライトは各会場において2日間かけて行いました。この事業には未就学児の保護者の皆様に参加していただき、[サポートブック研修][障害特性講義・疑似体験][グループによるピアカウンセリング]という内容で、それぞれ愛知県自閉症協会ベアレントメンターが担当させていただきました。ピアカウンセリングにおいては様々な内容についてベアレントメンターからの経験談、情報をもとに話がはずみました。
参加者を集計に加えている関係上、今回の「相談対象者年齢」は4～6歳が多く、「相談者と相談対象者の関係」は母が多くなっています。
当事業に参加したベアレントメンターを対象にアンケートを行いました。結果を別紙に報告させていただきます。

②メンター活動報告書の集計(10～12月)

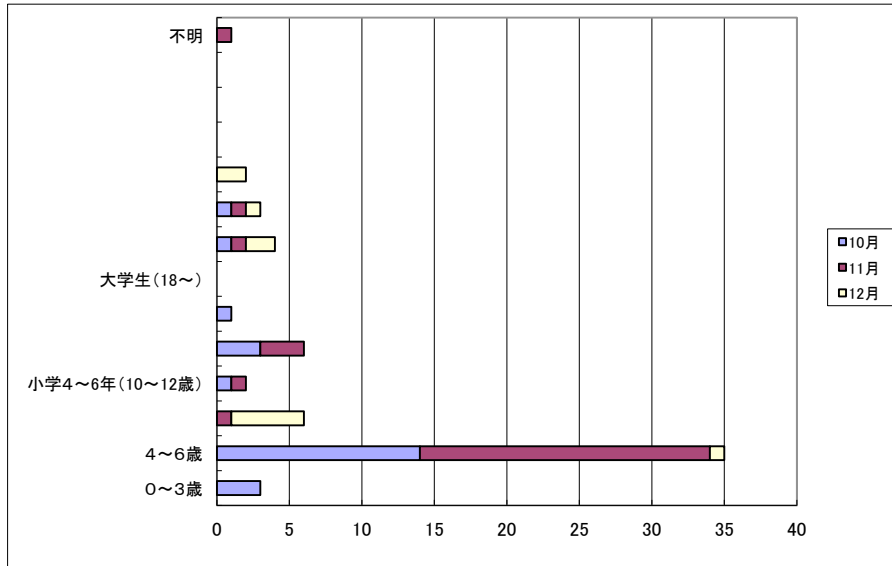
15名の方から合計47件の報告をいただきました。
つぼみの会で受けた相談、つぼみ主催の茶話会などの他にメンターが個々に受けた相談も該当します。以下に結果をご報告いたします。
報告数は一つの行事に複数のメンターからのものもありますので、相談件数が詳細数とかならずしも一致しません。ご了承ください。

(1) 相談件数と性別・知的・手帳の推移

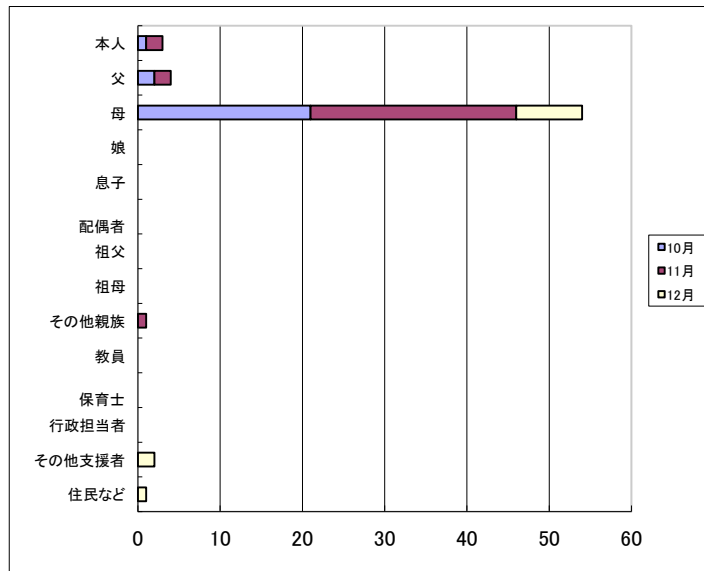
*未記入もあるため合計は一致しません

	相談件数	相談対象者		知的障害		療育手帳	
		男	女	あり	なし	あり	なし
10月	17	10	5	6	7	5	6
11月	18	12	4	3	8	2	7
12月	12	9	2	4	6	4	6

(2) 相談対象者年齢



(4) 相談者と
相談対象者との関係



「今回のゲストコメンテーター」

皆さん、こんにちは。今回は親子支援プログラム・サテライト事業についてレポートします。プログラムは二日間に渡って行われ、講義やサポートブックの研修、ピア・カウンセリングなど盛りだくさんの内容でした。障害特性についての講義には、手作りのグッズを使った疑似体験や自主製作ビデオを用いたロールプレイなど、楽しく学べる工夫が満載でした。ピア・カウンセリングは5~6名ずつのグループに分かれ、アットホームな雰囲気の中で行われました。参加者の意見を尊重しながら的確にアドバイスをするメンターさんたちの姿に、経験に裏打ちされたパワーを感じました。そして、プログラムを締めくくる岡田さんのコメント「子どもの障害を無理に受容する必要はない。親は子どもが幾つになっても成長して欲しいと願うもの。」が心に残りました。アンケートの分析から、今回のプログラムが参加者の育児ストレスを抑えたり、不安感を軽減する上で効果的だったことが分かりました。また家族や友人といった身近な人から支援されていると感じている人は、不安感や育児ストレスを感じにくい傾向にあるということも分かりました。これらの結果は、親子支援プログラムを通して継続的な支援を行っていくこと、そして専門機関だけでなく、家族や友人、地域の人々による支援を充実させていくことの重要性を示しています。今回の参加者が支援を受けながらエンパワーされ、そして今度はメンターさんとして新たな仲間をエンパワーしていく、そういった循環が続いていくことを願っています。

愛知県コロニー発達障害研究所 竹澤大史

第三回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

日頃からのメンター活動、お疲れ様です。前回、第2号では継続ケースが多く、心配していたのですが、今回きちんと数が減っており、安心しました。継続ケースを終結にもっていただける皆さんのお力に敬服します。今後どのような形で終結できたのか、まとめていけるとよいのではないかと考えています。

ケースを継続することそのものが悪いわけではありませんが、それはあくまでも専門家による相談、支援などが機能している場合に、それを補う形であると思います。専門家、専門機関と安定した関わりがもてていないケースでは、ペアレントメンターとしては、まずつなぐことが目標になるだろうと思います。統計上どのようにするかは難しいところですが、どこかにきちんとつながった時点で、メンターのケースとしてはいったん終結と考えてもよいでしょう。もし可能であれば、その後も継続して、迷う気持ちやもって行き場のない怒りの気持ちなどを共感しながら聞いていくことは、大きな助けになるとは思います。問題そのものを解決するのはメンターの仕事ではありません。難しいケースであればあるほどメンターだけが抱え込む形にならないよう、注意が必要だと思います。

もう一点少し心配しているのは、報告数の減少が必ずしも実際の相談や活動の減少を反映していないのではないか、ということです。報告にも労力がかかるのでご負担は大きいことかと思いますが、今後のメンターのサポートシステムを行政の方々と専門家と一緒に考えていく際の基礎的な資料となるデータになります。ぜひご協力をいただけたら幸いです。

名古屋大学附属病院 親と子どもの心療科 吉川 徹

⑤今後のお知らせ

今年度、厚生労働省「発達障害者支援開発試行事業」家族支援プログラムの委託を受け、愛知県自閉症協会ではサテライト事業(江南、岡崎、北名古屋)・SST(ソーシャルスキルトレーニング)・祖父母講座・きょうだい支援・ペアレントメンター研修・施設職員セミナーを行ってきました。平成22年3月14日(日)に名古屋市中企業振興会館において当事業の報告会を開催いたします。詳しくは当会ホームページに掲載しておりますのでお申度ください。

*メンター報告1～3月の締め切りは4月9日(金)とさせていただきます。メンターさんは当該月の相談について解答を(ない方も)必ずお願いいたします。

<編集後記>

Vol. 2で学部閉鎖についてコメントしたとたん、自閉症の息子が発熱・・・一気に肺炎になるという事態に陥りました。入院勧告にも本人が納得せず、仕方なく毎日点滴に通い、大騒ぎの中、手を変え品を変え色々格闘した日々を送っていました。その後私自身も発熱し、新型インフルエンザと判明したわけですが、この年になっての高熱は後々まで尾をひいて、しっかり立つことすらできないという経験をしました。恐るべし「新型インフルエンザ」・・・

この期間、加藤が担当する研修や講演などには他のスタッフに担当していただき「チーム」という枠組みのありがたみ・大切さを再認しました。サテライトでも自身や子どもがインフルエンザにかかり、交代したメンターも私以外にも数人いました。事業・派遣としての設定だからかもしれませんが、ひとりでなく複数のチームで取組んでいくことが活動を安定させていく第一のことではないのだろうか・・・と加藤個人では思っています。

我が家は息子・娘両方が今春卒業、入学という春を迎えます。3月始めに息子の卒業式があり、それから約一ヶ月軟禁生活に入ります。今からどう時間を過ごしていこうかと思案中です。卒業式の練習はしても入学式の練習はなく、養護学校であっても初めての状況で混乱した経験があるだけに、学校を変わったりと新しい環境での入学式を迎える子ども達はこれ以上なのでは・・・と思います。何か改善策がないだろうか・・・と頭をひねってみたいと思います。「体験談」として同じ悩みをもつ方にお話できるように・・・。

発行者:愛知県自閉症協会(つぼみの会)

〒460-0013 名古屋市中区上前津2-14-25 上前津中央マンション202

TEL/FAX 052-323-0298 E-mail tubomi-aa@nifty.com

編集担当者:支援部 加藤 香